

政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成21年4月13日（月） PM1:30～PM3:00
視 察 内 容	横浜市の横浜こども科学館について
視 察 者	山本雅宏、近藤隆志、中根勝美、小野政明、野村康治、柴田 泉、蜂須賀喜久好 園山康男、築瀬 太

《調査項目》横浜こども科学館について

○こども科学館の概要

管理運営／指定管理者 財団法人横浜市青少年育成協会

建 物／地上5階地下2階建

敷地面積／6,000㎡ 建築面積／2,185.11㎡

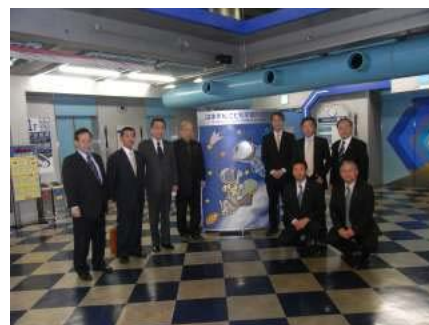
延床面積／6,484.26㎡

休館日／第3月曜日（夏休みは無休）年末年始（12月29日～1月3日）

開館時間／午前9時30分から午後5時（夏休みは6時）まで

入館料／大人400円 小中学生200円（プラネタリウムは別料金）定期利用券あり

1984年5月5日に開館。1995年にリニューアルしました。現在はネーミングライツにより「はまぎん こども宇宙科学館」という愛称で親しまれている。



○こども科学館の現況

●展 示

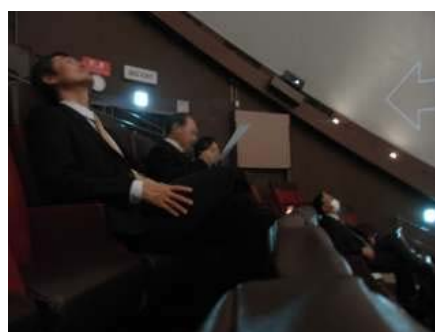
「宇宙と横浜」のテーマに基づき、科学原理を応用した展示物や遊具などを配置。子どもたちが操作・体験を通して、宇宙のふしぎや科学のおもしろさを楽しく学習できるようになっている。

また、スタッフによるサイエンスショーやミニ実験では、子どもたちに興味や疑問をもってもらい、科学を楽しみながら理解できるよう、参加性を重視している。



●宇宙劇場

宇宙劇場は、直径23m、日本初の傾斜型ドームで、プラネタリウム、全天周デジタル映像投影装置と音響システムにより、臨場感あふれる宇宙体験ができる。



《調査項目》横浜こども科学館について2ページ目

○こども科学館の効果

子どもたちが、操作・体験を通して、宇宙のふしぎやおもしろさを感じ、科学に興味を持ってもらう他にも、普及啓発事業として、コンピュータ教室、実験工作教室、天文教室などの教室をはじめ、企画展の開催やインターネットなどで科学情報や天文情報を提供し、科学知識の普及啓発に大きな効果があると思う。

また、ボランティア参加によるワークショップや野外活動の実施など、ボランティアの育成にも努めている。



○今後の展開と課題

現在利用者のほとんどが小学生以下であるが、今後は、今年の4月に開講した、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校との提携を図り、中高生の来場を増やしていきたいとのこと。



《感想・岡崎市への反映》

横浜市という大都市にあるこども科学館だけに、その規模といい内容といい、さすがにすごいと感じさせるものであった。

科学の分野の中でも宇宙をメインテーマにしているので、中心になるのはやはりプラネタリウムです。2007年に全天周デジタル映像投影装置を導入しリニューアルしており、迫力ある映像はたいへんリアルでもあり、子どもだけでなく大人まで魅了するものである。

また、その他の展示物や機器もたいへん充実しており、子ども達が体験を通して、楽しみながら宇宙や科学への興味をふくらませたいと思う

しかしこれほどの施設を整備し維持していくのも大変なことである。科学館である以上、常に最新の知見や情報を収集し、最先端の技術を取り入れていけなくてはならないため、横浜市でも開館以降継続的にリニューアルを続けてきており、岡崎市単独ではこれほどの規模の設備を維持し更新していくことはなかなかたいへんなことであると感じた。

プラネタリウムについても、たいへん魅力的ではあるが、その建設費や維持費を考えると二の足を踏むところである。

政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成21年4月14日（火） AM10：30～AM11：00
視 察 内 容	千代田区 東京科学技術館について
視 察 者	山本雅宏、近藤隆志、中根勝美、小野政明、野村康治、柴田 泉、蜂須賀喜久好 園山康男、築瀬 太

《調査項目》東京科学技術館について

○東京科学技術館の概要

開 設／昭和39年4月
運 営／財団法人日本科学技術振興財団

所在地／ 東京都千代田区北の丸公園 2-1
開館時間／ 9:30～16:50（入館は16:00まで）
休館日／ 年末年始のみ
入館料／ 一般 600円 / 中高生 400円 / 子供 250円

構 造／ 鉄骨鉄筋コンクリート造 規模／ 地下2階 地上5階（事務棟のみ6階）
敷地面積 6,814㎡ 建築面積 5,106㎡ 建築延面積 25,164㎡



○科学技術館の現状

科学技術の知識を広く一般に普及する目的で開館され、現代から近未来までの科学技術・産業技術に関する展示物を中心に、実験型ワークショップ、科学教室、講演会も数多く開催されている。展示物はそのほとんどが「HAND'S ON STYLE」と呼称され、閲覧者自らが主人公となって「見て・触って・体験する」ことを念頭において、楽しみながら参加できる方式を採用している。展示物はいずれもテーマと関連の深い業界団体や企業、助成団体などが制作協力を行っている。

現在年間60万人ほどの利用者で、約6割が小中学生。そのうち半分が学校からの団体利用である。



○シンラドームについて

プラネタリウムに似たドーム形状のシアターで、世界にまだ4施設しかない最新の設備。森羅万象を映す鏡にちなみシンラと命名された。

プラネタリウムよりコンパクトで、周囲12個のプロジェクターから立体映像を投影し、プラネタリウムはもちろん科学ライブショーなどインタラクティブなコンテンツも利用可能。費用も2億5千万～3億円とプラネタリウムの10分の一程度で設置可能。最も重要なコンテンツなどソフトウェアについても日本科学技術振興財団と提携や、岡崎の自然科学研究機構との提携により岡崎独自のものができる可能性もある。また定員60名と、ちょうど1学級+αのサイズなので、授業の一環としての利用もでき、その可能性は広がるばかりである。



《感想・岡崎市への反映》

日本を代表する科学館である。展示内容、設備、どれもすばらしいものである。ここに来れば世界の最先端科学技術に触れ、体験できるということで、地方都市にもこのような施設があったらなあとうらやましく感じるほどである。

とりわけシンラドームについては、たいへんすばらしい設備で、何とか岡崎市にも設置したいところである。当初、設置や維持管理に多額な費用が必要なものかと思っていたが、十分現実的なものであることもわかったので、前向きに検討をしていきたいと思う。



このような施設は単独の都市では設置も維持も困難であるが、この財団法人日本科学技術振興財団では、科学技術館運営管理のノウハウを活かし、科学館等の公共・教育施設のコンサルティング、企画設計から運営管理に至るまで、幅広く事業を推進しているとのことである。岡崎市子ども科学館についてもその基本構想から関わりを持ってもらっており、今後も連携を図って事業の推進を図りたい。

(財団法人日本科学技術振興財団 <http://www2.jsf.or.jp/index.html>)

政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成21年4月14日（火） PM1:00～PM3:30
視 察 内 容	台東区 国立科学博物館について
視 察 者	山本雅宏、近藤隆志、中根勝美、小野政明、野村康治、柴田 泉、蜂須賀喜久好 園山康男、築瀬 太

《調査項目》国立科学博物館について

○東京科学技術館の概要

- 明治4年10月／ 文部省博物局の観覧施設として湯島聖堂内に博物館を設置
 明治10年1月／ 上野山内に新館が一部竣工、東京博物館を「教育博物館」と改称
 （この年をもって創立年としている）
 平成13年4月／ 独立行政法人国立科学博物館となる

建物延べ面積／ 13,223 m²
 敷地面積／ 33,180 m²

- 開館時間 9:00 ～ 17:00
 金曜日のみ 9:00 ～ 20:00
- 休館日 毎週月曜日（日・月が祝日の場合は
 火曜日）年末年始（12月28日～1月1日）



○科学技術館の現状

国立科学博物館は1877年（明治10年）に設立された、日本で最も歴史のある博物館の一つであり、国立の唯一の総合科学博物館。

自然史及び科学技術史研究に関する世界の中核的拠点として、また日本の博物館をリードする中心的博物館として活動しており、約370万点におよぶ貴重なコレクションを保管している。



《調査項目》 国立科学博物館について 2 ページ目

○今後の展開と課題

本年1月には自然と科学の情報誌「milsil」を創刊し、自然と科学に関する情報をより多くの人々に広く提供していくこととした。

また、学校の授業で活用できる学習指導要領に対応した科学的体験学習プログラムや、各世代で求められる科学リテラシーに対応した体験活動中心のプログラム等、モデル的な事業の開発にも努めている。

そして、これら活動の根幹である調査研究においては「日本の生物多様性の地理的・歴史的構造に関する研究」を新たに開始し、より一層地球環境問題に貢献できる活動を進めていく。



《感想・岡崎市への反映》

日本で最も歴史ある博物館のひとつであり、自治体設置の博物館とはまさに桁が違う施設である。しかし、今後の展開の中にも述べられているが、「学校の授業で活用できる学習指導要領に対応した科学的体験学習プログラム等のモデル的な事業の開発にも努めている」とのこと。

学校と博物館が、相互の独自性を活かした連携を行うために、両者をつなぐ新しいシステムを開発・実施しており、標本貸出事業、文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクールとの連携、展示学習シートや教師のための博物館利用案内の作成・提供の他、学生の科学リテラシーおよびサイエンスコミュニケーション能力向上等に貢献するため「国立科学博物館 大学パートナーシップ事業」を実施している。

こういった事業については、岡崎市における「自然科学研究機構」と「こども科学館」そして「学校」とをつなぐ、連携事業の手本として参考になるのではないかと思います。